

徳島大学病院の和痛分娩について

当院での「和痛分娩」は、分娩時の痛みの緩和を硬膜外麻酔で行うことを指します。和痛分娩により得られる鎮痛効果は分娩時の心身の負担を軽減することが期待できます。ですが、麻酔を行うことで分娩経過や母児の健康にリスクを及ぼすこともあり、注意を要します。当院では計画分娩で和痛分娩を行っています。また、和痛分娩実施にあたり、規定を設けております。

以下は当院での和痛分娩の概要となります。ご確認の上ご検討ください。

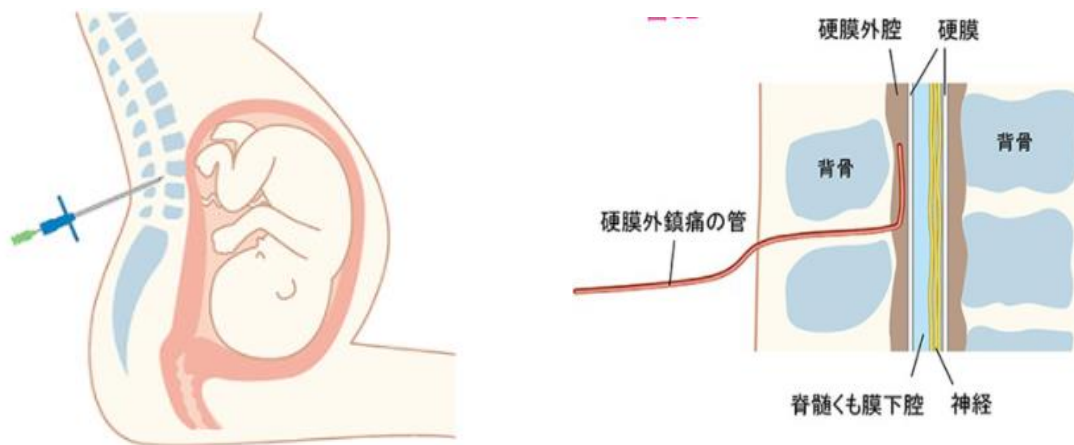
安全のため、規定手順に沿えない（例：血液検査で異常が出た、予定外に陣痛がきた、など）場合は、予約・実施を中止とさせていただきます。

・対象は、医学的に和痛分娩の必要がある方（医学的適応）と和痛分娩を希望される方（本人希望）で、予約制になります。予約枠が埋まっている場合はお受けできませんのでご注意ください。

・分娩時の痛みの緩和目的に麻酔を行います。

麻酔方法は硬膜外麻酔（硬膜外カテーテルを留置し、麻酔薬を投与する）です。

なお、痛みの緩和の程度は個人差があります。



・妊娠 38-39 週頃に計画分娩（実施日程を決めた上で頸管拡張（子宮口を広げる処置）や子宮収縮剤投与を行う分娩）で実施します。計画外の日程や時間外の対応は行っておりません。

入院当日：頸管拡張（、硬膜外カテーテル留置）

入院翌日：硬膜外カテーテル留置、子宮収縮剤投与

陣痛が来なければ追加の頸管拡張を検討し、翌日以降も子宮収縮剤投与

計画分娩のため、計画分娩に必要な頸管拡張や子宮収縮剤使用に伴うリスクが発生します。

・硬膜外麻酔による和痛分娩特有のリスクが発生します。

麻酔範囲が広くなりすぎる・カテーテルが予定外の場所に迷入する・アレルギー

→呼吸抑制、麻痺、など後遺症や命に関わる可能性、胎児に影響が出る可能性

吸引分娩が増える（10-15%）

分娩後出血が多くなる

- ・安全のため硬膜外麻酔による和痛分娩をお断りする場合があります。
- ・和痛分娩の可否については産婦人科と麻酔科の両科で検討の上、決定します。
- ・一旦、和痛分娩が可能と判断した後に異常を認めた場合も中止することがあります。

＜硬膜外麻酔による和痛分娩の対象外の例＞

- ・出血傾向、穿刺部の感染症
 - ・進行性の脊髄病変や一部の心疾患など、硬膜外麻酔が病状を悪化させる懸念がある場合
- ・和痛分娩による費用は15万円（入院・分娩費用とは別に追加料金として）です。
- なお、鎮痛の程度や硬膜外麻酔の完遂に関わらず、麻酔処置を開始した段階で費用負担が発生します。

詳細については妊娠後期に、ご家族一名同席のもと、改めてご説明します。

説明の際は「硬膜外麻酔による和痛分娩についての説明・同意書」と「分娩誘発・促進についての説明書」に沿ってご説明いたします。

和痛分娩説明当日までにご家族と「硬膜外麻酔による和痛分娩についての説明・同意書」と「分娩誘発・促進についての説明書」を必ずご確認くださいようお願いします。